



# 「下村満子の生き方塾」ニュース

## Vol.15 2017.11

### —Ⅶ期修了Ⅷ期入塾式特集号①—



前号に引き続き4月22日、東京・音羽の鳩山会館で開かれたⅦ期修了式とⅧ期入塾式の様子を再現するとともに、出席した塾生の感想を紹介します。(文責・皆川猛)

## 鳩山元総理の特別講演

# 「ミドルクラスの国」目指そう

## ● 大日本主義から脱却を

吉原毅・城南信用金庫相談役に続いて、特別講演をしたのは、鳩山由紀夫元総理でした。下村満子塾長は「自然エネルギーに力を入れている国は、経済が発展しています。吉原さんは、日本がアメリカの言いなりになっているどうしようもない国だと言いましたが、アメリカはきちんとした論理を前提にした話であれば、その主張を理解する国です。ところが今の政権は、アメリカに何も言わないから、なめられているのです。ではアメリカにはっきりともの申した元首相の鳩山由紀夫さんから、講演をしていただきましょう」と鳩山さんを紹介。登壇した鳩山さんは次のように講演しました。

——実は先日、民主党の重鎮が訪ねてきました。とても懐かしい思いでしたが、その用件は「今度、民主党OB会が発足するけれども、入らないでほしい」という注文でした。理由をいくつか挙げましたが、民主党をつくったのは私だったことを忘れたような発言で、がっかりしましたが、このように、今の民主党というか民進党は、冷たい雰囲気になってしまった。仲間を大切にする大らかさがなく、友達を大切にする余裕が感じられない。その点、安倍内閣、自民党は、温かさにあふれる政権、政党ですね。無責任発言を閣僚は繰り返しているし、多数決でやりたい放題だ。彼らは、野党がないと思っているからです。今こそ、しっかりした考えの下での、野党再編の時期だと思います。

前置きは以上にして、本論に移ります。グローバリズムに対する不満は多いけれど、全面否定ではなく、いいところは受け入れるべきだと思う。モノ、ヒト、資本、情報は国境を越えており、特にEUはこれらが自由な地域です。日本を含む東アジア諸国がEUのような地域になれば、緊張はなくなるでしょう。大きな視点で東アジア共同体を目指すべきだと私は思います。モノ、ヒト、資本、情報などが完全に自由になれば、世界は単一市場になり、単一価格となります。そうなれば、富の偏在は解消され、金融資本主義の弊害も小さくなるはずですよ。

イギリスのEU離脱は、グローバリズムの影が生んだ格差拡大に対する貧しい階級の不満が顕在化した結果であり、フランスの大統領選でも、EU離脱を訴えている右翼のルペン党首が支持を集めているのも同じ理由でしょう。そも



鳩山夫妻を紹介する下村塾長

そもEUは、ヨーロッパの大国であるドイツとフランスの衝突を回避する目的で発足しました。そのフランスがEUから離れたら、と考えると、明るい展望はなくなります。アメリカのトランプ政権も、格差拡大に対する不満層の支持がベースになっている。そのトランプ政権ですが、支持層の期待とは逆に、富裕層が喜ぶ政策へと方向転換しています。

アメリカは軍産複合体の国家であり、トランプと争ったヒラリーは、この複合体が支持母体です。だからヒラリー政権になったら、きっとどこかで戦争を起こす。そうなれば昨年成立した戦争協力法によって、日本はアメリカの後方支援をしなければならない、と心配していましたが、トランプが勝って一時は安堵しました。

しかし、トランプは、国内経済優先の政策から、金融資本主義、グローバル経済、場合によっては世界の警察も辞さない政策へと変節をしたので、困った事態となっています。

日本の役割は、戦争に足を入れようとするトランプ政権



講演する鳩山由紀夫元総理

に待ったを掛けることなのだが、逆に中国の世界への進出、北朝鮮の核開発などの危機感に煽られ、アメリカの武器、兵器を買わされそうな状態です。だからこそ、アジアの国々と仲良くすべきである。戦争をして平和はつukれない。アメリカと北朝鮮が対話できる環境をつくるのが日本の役割だと考えています。

国内を見ると、安倍総理は「大日本主義」を目指していることが分かります。「大日本主義」とは、強い国であり、対米従属、新自由主義経済、国家の権限を強化する憲法改正、核兵器開発への可能性を維持するための原発推進、安

保理の常任理事国入りなどがその根底にある裏付けの政策です。普天間基地の移転先に辺野古にこだわっているのは、沖縄の米軍基地の固定化にほかなりません。

大日本主義に対して、私は「ミドルクラスの理想の国」を掲げています。対米自立、東アジア共同体、日中韓とのFTAを外交の基本にして、金融資本主義規制を行う。国民の権利を拡大する憲法の改正、原発廃止、政財官癒着の打破を目指したい――

## 交流パーティー

# 「ふるさと」を合唱し精進誓う



「ふるさと」を合唱し、さらなる精進を誓い合った交流会

「あつまる」の若手社員、ヨークベニマルの女性幹部ら多くの新入塾生が出席した修了・入塾式は、例年にない盛り上がりで、印象に残る集まりでした。交流パーティーもとても短く感じましたが、それは充実したパーティーだったからでしょう。吉原さんの講義は、これまでの点としての知識を線にして、さらに線は面になるような全体を俯瞰した充実した内容でした。特にロスチャイルド家の暗躍、ウラン・シンジケートと原発などの話は、ジグソーパズルが埋まっていく感じでした。

また鳩山さんのスピーチも、激動する世界情勢に対応

した内容だけに、もっと聞きたいと思いました。安倍政権のアンチテーゼとして提起した「脱大日本主義」は、その通りだと思います。汚辱にまみれた政界に鳩山さんがカムバックするのは無理でしょうが、暴走する政治に対して警鐘を鳴らし続けてください。

修了・開塾式のフィナーレは、交流パーティー。精養軒の料理を楽しみながら、遅くまで歓談が続きました。フィナーレは「ふるさと」の合唱、一年間の精進を誓い合いました。

## 修了・入塾式 塾生の感想

### ● 完全燃焼を心掛けたい

〇…自然エネルギーに関し、映画や吉原さんの話で学ばせていただきました。ニュースを聞いて、何となく分かってはいましたが、当事者意識が全くない自分自身に問題を感じています。しっかり勉強したいと思います。鳩山由紀夫元総理のお話も、大変貴重なものでした。「生き方塾」で貴重な学びを積み重ねることで、自分自身の成長が楽しみです。何よりも、近い魂

をもった皆さんと時間を共有し、学び合うことに価値を感じております。本気で、本質的な生き方を学び、かつ、今後の人生でその学びを、多くの人に伝達していけるようになります。

また、フィールドの高い方々との時間の共有も貴重で、奇跡的に感じます。そのオーラを感じ取り、徹底的に吸収し、フィールドを上げていきたいと思っています。フィールドの高い方と直接



塾生と気さくに会話する吉原さん④

お会いし、コミュニケーションを取らせていただくことで、世の中に対する可能性も、より大きく感じることになりそうで、ワクワクしております。会場の鳩山会館、お庭も素敵でした。「生き方の本質を腑に落とす、心を高める」。これをテーマにして進みます。(石井陽介)

○…下村塾長や素晴らしい方々と、間近で接することができたり、お話を聞くことができることが奇跡でしかありません。温かく迎えてくださった下村塾長、そして塾生の皆様、ありがとうございました。世の中を知ることの重要さを感じた1日でした。知らないことを学ぶ→興味を持つ→深く関わる→善きことを人に伝える。このループが今後学べると思うと、楽しみで仕方ありません。まずは自分自身が学びを深め、成果に結びつけるとともに、この塾での学びを必ず世のために活かせるように精進します。

今回の塾で学ばせていただいたことは、「受け入れる愛」です。生き方塾での下村塾長の姿を見て、こんなにも塾生一人ひとりに向き合って、愛を注いで、本質を伝えられている、まさしく根底には常に愛があるんだ、と感じました。また、応援団であり塾生の中島好美様にも、学ぶべきことが多々ありました。私自身、第一印象がどうもツンケンした印象を持たれるため、同性よりあまり好かれていないような気がします。一方、中島様は、強い芯はあるものの、物腰が柔らかく、みんなに好かれる（寄ってくる）印象を持ちました。私に足りない部分ですし、今後学ぶべきポイントだと思います。表情、雰囲気から親しみやすいオーラが放てるよう、成長していきたいと思います。(黒石涼)

○…修了式では、下村塾長から修了書と全員にプレゼントが用意されていました。下村塾長自ら、一人ひとりへプレゼントを選ばれており、すごく近い距離で学べるんだとワクワクしました。私は決意表明の際、「目の前の人に感謝し、幸せにできる人になりたいと思っています。そのために下村塾長から、本質思考や豪快さ、愛、命とは何か、生き方や考え方を学びます」と言いました。

塾長の入塾記念講話「なぜいま生き方塾なのか？」では、「今この瞬間、今立っている所で花を咲かせる」という言葉が胸に響きました。弊社での塾長の出前塾で、この言葉をお聞きしてから完全燃焼を心がけています。完全燃焼しなければ後悔の多い人生になると思うので、今の自分が出せる最大限の力を出し続けて成長していきたいと思います。「失敗は自分のせい、成

功は周りのおかげ」ということを念頭に置き、毎日反省を繰り返していきます。

吉原毅氏の話には、考えさせられる多くのことがありました。原発の重大事故は起きないよう専門家がなんとかしてくれる、と自分には無関係だと考えていました。しかし、それは誤りです。世界では自然エネルギーが注目されていることや、原発問題も政・官・財が裏側で絡み合っていること、日本はアメリカによってマインドコントロールされており、真実が降りてこないこと、日本でこのように原発問題や次なるエネルギーを考えられていることなど、ほとんどが新たな学びでした。

新聞の中には、真実でないことを報道している新聞もあるとおっしゃり、驚きました。これを機に、ニュースや記事を読んだ時に、他人事とスルーするのではなく、日本の未来にどのような影響があるのか、国民一人ひとりができることはないかを考えていきたいと思います。

日本のトップに立っていた鳩山由紀夫氏から、日本の目指すべき道についてお聞きして、大変光栄な事だと感じました。鳩山氏についても、経済・政治・歴史についても、自分の知識不足を痛感しました。自分の頭で考え行動するために、歴史と現状を知ることから始めたいと思います。

交流会では、簡単には会えない方々と和気あいあいとお話できる時間は、とても価値が高く貴重な時間を過ごすことができました。その人の雰囲気や行動を見ることができ、本では学ぶことのできない生き方のヒントが溢れているなど感じました。その一例ですが、アメックスの中島様に「女性が組織の中で上に行く時に、大切なことは何ですか？」と聞くと、「感謝の気持ちを持つ（役職をさせていただいている）」「ありがとう」と1日20回以上言う（店員にもありがとうと言う）」と答えてくれました。「怒ったりしないのですか？」には、「怒っても仕方ない、得しない。笑顔でいた方が楽しい」「相手の不首尾は自分の責任、自分がどうすれば良かったのかと考える」「何かを頼む際も、『これが終わったら飲みに行こう』などのモチベーションを上げる言葉を足す」などと言ってくれました。(林美智子)

○…塾長講話で印象に残ったのは、「強い願望を持って目標を持ち、それに向かって一生懸命努力する。そうすることで結果を変えることができる」という話でした。入塾した動機は、①人生の目標を皆様がどのように立てられたのかを学び、それを自分自身に生かしていくこと②人生の目標に対して強い願望を抱くことの2点を達成したいと考えたためです。

原発に代わるエネルギー開発の話聞いて、時事問題について全く興味関心を持っていなかったことを猛省しました。また、知ったつもりになっていたということも反省です。「一次情報に当たること」が重要だと言われますが、二次、三次情報で満足し、それ以上深く考えていないことを痛感しました。

また鳩山元首相は初めてお目にかかりましたが、本当に素晴らしい人だと感動しました。冷静に世の中を見つめられ、目指すべき国のあり方を考えられており、器の大きさを実感しました。おっしゃる内容一つ一つに説得力があり、なるほど、と思うようなお話でした。

今後の課題ですが、来月（5月）までに自分の「なりたい像」をまとめ、自分のビジョン・シートに反映させるということです。(松井一真)

## ● 持論を持つ大切さを知る

○…修了式で、下村塾長が、おひとりずつに言葉を交わされながら、賞状と記念品を渡される姿を見て、塾長と塾生の距離の近さ、お互いを尊敬・尊重されているような深い愛情を垣間見た気がしました。冒頭の修了式だけで、「生き方塾」の縮図が見えたというか、塾そのものの温かさ＝下村塾長が作ってこられた空気感、を肌で感じる事ができました。

塾長記念講話で考えたこと。生きるとは？—仕事を通じて自分の価値を高めることだと思っておりますが、自分が存在していることで誰かのためになること。利己を抑えること。考え方を磨き続けること。愛とは何か？などを、「生き方塾」では学びたいと考えています。

「生き方は死にざまに出る。死は人生の決算書」という言葉が強く印象に残りました。人として正しい生き方をするには、人として正しい選択や決断を積み重ねていくことではないかと思えます。

郡山市で小泉元総理が行った講演では、サポートで参加しましたが、その時初めて「原発はいらない」と知りました。自然エネルギーがいかに有効かつ経済的効果をも生むのか。日本がどれだけ世界に遅れをとっているのか。原発をめぐる利権争いなど、普段どれだけマスコミや世間に情報操作されているのかを思い知りました。やはり持論を持つこと。世論に流されない生き方をしたいと決意しました。

さらに、あんなにも近い距離で、鳩山由紀夫元首相の話聞くことができ、「生き方塾」(下村塾長)の凄さと価値を痛感しました。安倍首相との対比でお話いただき、日本のあるべき姿、政治のあるべき姿を考えさせられました。時事問題に関して不勉強な点もあることを知らされました。普段の生活から、政治経済、世界情勢に関心を持ち、自ら情報を取りに行くことをしない限り、持論を形成することはできないと反省しました。交流会でも、塾長と塾生の距離の近さを感じることができ、多くの方とお話しさせていただける環境のありがたさを感じました。最後に塾長にハグしていただき、大変光栄で、嬉しかったです。(諸富英輔)

○…鳩山会館は、重要文化財として様々な人が歴史を知るために、または観光に訪れる場所です。そのような場所を貸し切り、思っていたよりもアットホームな雰囲気スタートした修了・入塾式は、皆勤賞はじめ様々な賞があり、下村塾長とこんなに近く触れ合うことができるのかと驚きました。また、下村塾長が、ほぼ全員の名前や経緯を覚えていらっしまったことに驚いたと同時に、私も覚えていただけの存在になれるよう、一年まずしっかり頑張ろうと思えました。決意表明では、「無限の可能性を周りに伝えていけるような存在になるために、人間力を高めます。人生を豊かにする方法を学びます。」と述べさせていただきました。

塾長の記念講話では、①衆生本来仏なり。仏性は一人一人が本来持っているもの。修行は永遠に続けていくもの②天才と凡人のDNAの差は0.15%ほどしかない。人生ではDNAの3%くらいしか使わず死んでいく人が多い。③DNAをONにするのは愛、利他。つまり本質④ポジティブな考えを持つ。ネガティブではダメ。運命や宿命は、変

えられないものはない。本当に強い想いは実現する⑤因果必然。物事には原因がある。人のせいにしてはダメ。→自分が変われば、人も変わる⑥考え方×熱意×能力→能力は、ONにさえすれば誰でも使うことができる⑦「今」を100%で生きる、などの話が特に新鮮でした。



交流会で挨拶する鳩山幸さん

遺伝子を「愛」と「利他」でONにする。今まで遺伝子をONにする、なんて考えたこともありませんでした。自分の中に、遺伝子をONにすることでどんな可能性が広がっているのかを知りたいし、それを体現していきたいと思えます。

今を100%で生きることが、後悔しない人生になる。最近流行っていた「東京タラレバ娘」(〇〇だったら、〇〇していればというのが口癖の現代の女性たち)のような生き方ではなく、「今まで後悔のない人生!今が100%だから今が一番楽しい!」と言い切れる強さを保つためにも、日々完全燃焼していきたいと思えます。

吉原毅氏の講演で、物事をきちんと考えることができていることに気付かされました。自然エネルギーを全く知らず、そもそもこんなものがあるんだと驚きました。いつも自分の周りの環境、自分に直で降りかかる問題や会社のこと、すごく小さなコミュニティしか見ていませんでした。知り得るのはテレビのニュースと、ネットのニュースのみ。よくよく考えると、情報操作されていたなと感じました。というよりも、本当の情報はなんなのかなと考えたときに、今は自由にネットで調べることができるので、自分でそれを勉強して取りに行こうなんて考えたこともなかったです。今、自分に降りかかってこなくとも、将来の日本、世界などなど、今どこかで起こっていることは確実に私たちの生活まで影響があります。まず情報を鵜呑みにするのではなく「本当のことは何だろう?」と考えること。それが、これからの日本や世界を生き抜いていくのに本当に必要な力だと思えました。

鳩山由紀夫氏の話は、先日的小泉元首相に続いて本当に学びの多い時間となりました。そもそも民主党を作った方なのに、民主党OB会に入るなど言う今の政治家たちに疑問を感じ、下村塾長が言う「政界は汚い世界」ということも納得できました。私は、情報を鵜呑みにしてしまっており、今までの鳩山元首相の報道のイメージしかなかったのですが、実際はこのようにしっかりと話すことを考えられて来られて、平和を考えている方だということを知り、本当に正しい



大いに盛り上がった交流会

情報を知ることをしていかなければならないと感じました。

交流会では、下村塾長のプライベートなお話をお聞きできたり、超一流の方々とアットホームな雰囲気でお話できたり、思っていたりも、一人一人が近くて深くお話できる時間でした。まさか人生で、元首相とお酒を酌み交わす機会があるなんて思ってもみませんでした。本質的な話が瞬時にできるような人間になるために、知識、経験を積み、実践で自分のものにしていき、ここにいらっしゃる皆様と、もっと人生についてお話をできるように成長したいと感じました。また、「あつまる」の社員が入って雰囲気が元気になった、と言っていた人がたくさんいらしゃったのが、幸せでした。(植松里菜)

○…鳩山会館という贅沢な場所で、素晴らしい時間を過ごすことができ、入塾させていただいて良かったとつくづく感じることでできた一日でした。自分たちの力では到底お会いすることのできないフィールドの高い方々のお話を聞くことができ、直接会話もさせていただき、大変感激しております。

「なぜいま生き方塾なのか」という塾長講話では、①「衆生、本来仏なり」…それが、残念ながらたまたまその人の心がその時に悪くなってしまっているだけ②「因果必然の法則」…自分が今の自分に結果を返している。人のせいにはいけない。人を変えるより自分が変わることを考えるべき—この2つが特に印象に残りました。自分の心というものが、いかに作用しているか（良い心を保つことがいかに大切か）を、改めて自分に言い聞かせております。

エネルギー問題では、なぜ人間は限られた資源をいくら

## ● 情報は鵜呑みしない

○…とにかく塾長の熱意に圧倒された一日でした。お話をされると、とてつもないエネルギー・熱を発しておられ、「伝えよう」という想いや心の奥底の芯の強さを自然と感じました。塾長が多くの人を惹きつけるポイントは、この熱・想いがあってこそだと思いました。自分ももっと自分の芯を強くするために、自分が胸を張れる生き方を探していこうと思います。

エネルギー問題について吉原さんが話したことは、情報操作や社会の裏側を知るいい機会でした。自分は本当に世の中を知らないなと感じ、もっと情報を掘みにいく

でもあるかのように使い続けるのだろうか？奪い合ったところで、根本は解決しないのに。自然エネルギーという持続可能な方向に、いつになればシフトするのだろうか？なぜ安易に原子力という手に負えないものを使ってしまうのだろうか？自然エネルギーのほうが「未来がある」ことは明らかなのに。原子力ムラという存在を知らなかったことは、完全に不勉強でした。こういったことを今後しっかり勉強していかなければいけないと思います。「では、どうすれば良いのだろうか？」と考えていますが、裏に巨大なものがありすぎて、正直、難しい問題です。

ただ一つ、今回上映していただいた河合弘之監督・最新作「日本と再生」を広めることは、私たち国民一人一人にもできることだと教えていただき、希望が持てました。できるだけ多くの方に見ていただけるように私も友人や家族に伝えて、動いていきたいと思っています。

懇親会で感じことは、下村塾長の周りにお集まりになる方々は、やはり皆様明るく魅力的な方ばかりでした。これは、まず下村塾長ご自身が愛の塊であり、人に愛を与え続けていること、そして人を見る目が本質的であることを現していると思います。

来月以降も毎月、塾生の皆様にお会いできることが楽しみです。先輩塾生から「素直に、元気に、前向きに」と温かいお言葉を掛けていただき、そのように学んで行動し、皆様にパワーを感じていただける存在でいることがせめてもの役割であると気づきました。

素直に、元気に、前向きに、学んで行動していきます！

(亀井愛美)

努力、正しい情報かどうかを見極める能力を養うことが必要だと思います。そのためには、日本だけでなく、外国の動きも知らないと判断できないと思いましたし、自らもっと多くの情報を取る必要性を痛感しました。自然エネルギーはクリーンで、多くの恵みをもたらすのに、無関心を装う日本政府には疑問しかありません。この状況を変えるには、一人一人の意識を変え、声を上げていくしかありません。まずは自分もその一人になります。

鳩山元首相に直接お会いして、失礼な話、自分もマスコミの流す情報に大きく流されていたのだなと感じ、と

でも恥ずかしい思いでした。実際はとても正義感に溢れ、平和で柔和な方で、素敵なお人柄の方でした。首相でしか分からない視点、苦勞、今の政権への意見など、普段では絶対に聞くことのできない数々のお話は刺激的でした。既成の観念を捨て、己の目で見たものを信じる。その情報の取捨選択をしなければならぬと感じました。

鳩山会館という歴史溢れる場所で、入塾式という極上の機会をもらい、大変興奮しました。来賓のフィールドの高さも驚きでしたが、入塾されていらっしゃる皆様の人間性が素晴らしく、どなたとお話しても人間の魅力に溢れており、このような機会をいただけたことに心から感謝いたします。

自分はこの塾に入塾すれば、自分の使命や「生き方」が見つかるかと直感して、入らせていただきましたが、直感「確信」に変わりました。しっかりと自分の「生き方」のために、深く深く学ばせていただきます。

今後は①情報を鵜呑みにせず、調べてから真実かどうかを見極める②「生き方塾」に皆勤し、己の意識を変える③一人でも多くの方とコミュニケーションをとり、学びを深め、自分の生き方を見つける一を指針にするつもりです。(空閑陽一郎)

○…下村塾長は、「生きるとは」をテーマに講演なさいました。稲盛和夫塾長がおっしゃっていることを、塾長自身のお言葉でお話いただきました。①まだ起きていないことに、くよくよしない②損か得か、目の前のことだけで考えない③死は最期の決算書④「できる」と思って取り組む、がその柱です。

映画は、原子力よりも安価で安全なものがあるという立証ドキュメンタリーで、もっと脱原子力について勉強する必要があると思いました。

吉原様は政界の事実を踏まえ、原子力について講演しました⇒ひとつの事実として理解する。理解したら自分で考えてみる。自分で勉強することの重要性を感じました。

また鳩山元総理大臣スピーチでは、原発を推奨する人たちが未だに跋扈している理由について、核兵器を開発する際、役立つからと説明しましたが、これにはあまり納得していません。

懇親会では、中島好美様とのお話できました。中島様は①感謝の気持ちを伝える②感情でイライラしない(何のメリットもない)③役員になる理由→決定権が増える④常に口角を上げておく⑤叱る時は大善の目線で行い、正しい指摘は同じ誤りの繰り返しを防ぐ⑥目の前の事で判断せず、長期的な目線で決断する一などと話しされました。

講演を聞く際は、事前にテーマを確認、その話を聞いて何を学ぶのか決めるという目的意識を持つことにします。(山本朱加莉)

○…修了・入塾式で、下村塾長が一人一人と話されながら、その人に合った贈り物を手渡しされていました。限られた時間の中で、講話の時間を短くしてでも、決意表明を優先させたいと言われていたことが心に残りました。温かい雰囲気塾生との心の距離が近く、塾生一人

一人を大切にされていると感じました。私も知識で終わらせるのではなく、実践できるように本質思考を学んでいきます。

塾長の記念講話は「なぜいま生き方塾なのか？」で、①自分の基軸を持つ②衆生本来仏なり③愛は遺伝子をオンにする④愛や利他は道德ではなく、本質⑤因果必然一起こったことには全て原因があり、しかも意味がある⑥迷った時は、人として正しいかどうかを判断基準にする、というお話が印象的でした。

悪いことが起こった時は自分の行動や思考を反省することだけでなく、いいことが起こった時も、周りのおかげであるという意識を持つように心がけなくてはと思いました。先日の弊社での出前塾でもお話に出た「一瞬に完全燃焼する=100%ベストを尽くす」が、次の扉を開くということを忘れずに、日々の業務に取り組んでいきます。

特別講演では、普段の生活をしている中では絶対に会うことがなかつたらう方々に、たくさん会うことができ、貴重な時間を過ごさせていただいていると感じました。

今回のお話はどれも新鮮で、ニュースで見るだけで深く考えていなかったことを思い知らされました。また自分の周りで見聞きする情報は合っているのか、正しく判断することが必要であることを学びました。まずは周りの意見を鵜呑みにせず、偏見を持たず、自分の目で見て判断することを心がけます。

交流会も感動ものでした。いろいろな方と、とても近い距離でお話することができて、驚きました。講演だけでは感じられない、何気ない言動を見ることができました。下村塾長にハグをしていただいたり、皆で歌を歌ったりと、初参加とは思えないくらい、ここでも周りの方の優しさや温かさを感じました。そして、詳しくお話を聞きたいと思っていた中島様とも話すことができ嬉しかった。感謝を言葉で伝える、怒らない方法など、すぐに実践できることを、多々教わったので取り入れていきます。(吉村千穂)

○…非常に学びが多く、ワクワクしっぱなしの一日でした。多くの方々のお話を伺い、自分の考え方や世界がいかに狭く小さかったかを実感しました。この一日で自分の世界が一気に広がった思いです。大きな学びとなったのは、情報が氾濫し、マインドコントロールが日常化している現代社会では、「自分で」考えるクセを身につけなければ生き残ることはできないということです。ただ知識として頭に入れるだけでは意味がなく、そこから背景や本質を考え、自分の意志・価値観を持つことがいかに重要であるかを痛感しました。

下村塾長の言葉で印象的だったのは、「本当に強い思いを持つこと」という言葉です。誰も97%のDNAは眠っている状態であり、自分の努力次第で何でも実現することができる。目の前の事象は全て自分に起因していて、未来を変えたければ原因となる現在を変えるしかない。もう一つは「全生命、元は一つ」。動物であろうと植

物であろうと、元は一つの生命から派生している。他生物を殺めることは、兄弟を殺めることと同じ。生命は皆平等。

「日本と再生」の特別上映では、「原子カムラ」の姿が明らかにされました。利権構造は非常に複雑。多数かつ様々なファクターが絡んでおり、単純に原発を停止すればいいだけの問題ではない。「接続可能量」「空き容量ゼロ」「送電網連結負担金」など、越えるべき壁が多い。これも、既得権益層が利己的な考え方しかもっていないから生じていると考えます。また、ドイツのエネルギーヴェンデのように、国策として原発廃止と自然エネルギー開発（普及）を行うべき。投資回収率が10%を超えるケースも相次いでいる。原発の場合、放射能等のリスクが非常に高い上に、保管コストが半永久的にかかる。「自然エネルギーはクリーンかつ利益になる」という認識を広めるべき。自然エネルギーの普及を促進するためには、補助金や制度によるサポート体制の構築が必要であり、なおさら国策として取り組む必要がある、と考えます。

特別講演のキーワードは・政官財の連携が必要・スキャンダルは重要な外交カード(?)・マインドコントロールだと感じました。「政官財の連携が必要」は、原発問題を根本から解決するためには、政官財のそれぞれが手を取り合う必要がある。しかし、既得権益が複雑に絡まっている現状、道のりは簡単ではない。公共選択論の観点か

## ● 目の前のことに熱中する

○…世の中に影響力を与える方々と出会えて、大変刺激を受けました。今まで出会った知識のある大人から、批判を耳にすることが多く、「知識があっても、文句言うだけで何も変えられないんだ」と感じていました。そのため、世の中に全く興味がなく、「知ってどうなるの?」と思っていました。ただ今回、実際に世の中に影響力がある人、日本を動かせる人がいるということを知りました。私も文句しか言えない大人ではなく、世の中に影響力のある人間になりたいと思いました。

「日本、大丈夫か!？」と思ったこの気持ちを忘れずに、もっと世の中のことを知ろうと思います。その上で、「自分の頭で考える・自分の目でみる」ことも忘れずに、メディアに洗脳されないようにしたいと思いました。また、素敵な女性がたくさんおられました。女性で認められるにはどうすればいいのかと思っていましたが、話を聞く中で①目の前の仕事に熱狂してがむしゃらに100%の力でやる②自分にできることなら何でもやる、という姿勢が大事だということに気づきました。

私のビジョンは、「人生は、あなたが思っているよりドラマティックだ」ということを、出来るだけ多くの人に伝えることです。「生き方塾」で学ばせていただいたことを活かして、世の中に可能性を伝えることができる人間に成長したいと思っています。なので、まずは「目の前」。ここを意識しようと思います。

・ニュース・アプリを携帯に入れて、毎日通勤電車の中で読むようにする。

ら、各プレーヤーを分析することが第一歩となります。「スキャンダルは重要な外交カード」ですが、これは私がかこれまであまり知らなかった観点です。外交においてはいくつものカード（攻めるポイント）を手元に持ち、その場に応じて最適なカードを切っていく。外交に限らず、国内の政治や日頃の交渉においても同様です。「マインドコントロール」も、あまり気づいていない事柄です。「報道の自由」とは言っても、情報は統制されている、と考えるべきです。「この情報が報道されている裏では何が起きているか」と、その背景や根本、見えていない部分を考えるようにしなければ、気づかぬうちに操られてしまうことを知りました。

鳩山さんの特別スピーチも刺激的でした。日本の常任理事国入りは、アメリカ票を増やすだけという視点。日本がアメリカの言いなりになっている現状、たしかにアメリカの票を増やすだけだと納得してしまった。しかし、なぜ日本がアメリカに依存しているのか、私は厳密には把握していない。何も知らずに批判するのは意味がない。いろいろなことを知り、自分なりに思考を繰り返したうえで、持論を持つと思う。

自分がすることは、①歴史を知る—昭和史を学び、日本がアメリカに依存している背景を知る②エネルギー問題を知る—書籍から学び、原発の問題点と、その代替案を語れるようになる。(渡邊薫人)

・読んだ記事の話を松井部長に朝MTGで報告する。  
・朝MTGで、今日の目標を立てて一日をスタートさせる—普段1時間かかっているこの作業を、今日は50分までできるようにする。(諸泉佳子)

○…私のビジョンに直結すると思っているので、入塾の動機から始めます。私のビジョンは、「人生の集大成である葬儀に、いかに多くの人に足を運んでいただけるか」です。塾長のおっしゃるHOW TO DIEは、私のビジョンそのものです。そのための「生き方」を学ぶために、入塾しました。

修了・入塾式では、下村塾長にハグしていただけるやら、鳩山元総理にはお会いできる、中島様のような方と気さくにお話しさせていただける。とにかく濃厚なお時間でした。このような方と近くでお話しできる、自分の動き次第でより学びの時間をいただける可能性があると感じています。講話、講演は、全て勉強不足の私には初耳のことばかりで、自分の未熟さ、世間知らずぶりを痛感しました。

塾長の講話で、「日本人は、今や1億総評論家」「選挙にも行かない」という言葉がありましたが、この場で学んだことを鵜呑みにするのではなく、自分の持論にし、意思表示（選挙もその一つ）を行っていくのが、社会にできるこの塾で学ばせて頂いた「生き方」の最も初歩的な形なのかなと思いました。

5月以降での「生き方塾」への参加に向けて、次のように考えています。

①アウトプットを積極的にする—せっかく参加させてい

ただけるこのような場で、黙っている、ただ参加する、インプットだけではもったいなさすぎます。4月はインプットが多かったですが、5月以降は、アウトプットの場も増えると同っています。自分の今段階での「生き方」は、間違っているというよりも、改善点がありすぎるはずで。その改善点に気づき、改善していくためにも、積極果敢にアウトプットを行わせていただきます。

②ゲストの方や、大物の方に臆することなく、自分からお声掛けしに行く(ただの挨拶ではなく、名前を覚えて

もらう。質問を用意しておき、学びを得る)。(武松翔平)

○…この塾にて学びたいことは、本質的思考、人として正しい生き方、判断とは?ということを読みながら、実践していくことです。激動する社会情勢の中で、様々な問題を傍観するのではなく、しっかりと持論を持ちつつ、その持論が人として正しい考え方かどうかという基軸を基にしたものにできるように学んでいながら、自分に何ができるのだろうということを考え、行動していきます。修了・入塾式では、吉原相談役、鳩山元総理大臣をはじめとする、各界の著名な方々の話を聞く、貴重な時間をいただきました。素直に学ぶという点では、先生方のお話を受け止め、様々な事情を学ぶことが必要かもしれませんが、丸々先生方の意見を自分の持論にするのではなく、その話を踏まえて、自分で考え、勉強し、それが本当に正しいのかどうか、自分に腹落ちさせていこうと考えております。

25歳の私が、この考え方を軸にした生き方に気づけたこと、学びを得られる環境にあることに感謝しながら、自分の人生を豊かにするとともに、社会を少しでもいい方向に導いていけるように努力していきます。今までにない、刺激と学びを得られた一日でした。

下村塾長は、10の考え方を基に、「なぜ今生き方塾なのか」と題して、人間本来の姿、人間の可能性などについてお話しいただきました。

このような考え方を持てば、人生が良くなる、または良くしようとするのがすでに重要なのだと気づきました。特に、自分が周りの環境すべてをつくっているということについては、自分が考え方を正しくもち、行動を変えなければ、人生が豊かになることはありません。ひと時の成功であればあるかもしれませんが、人生を通して幸福を追求するためには、やはり考え方がすべてだと感じました。

自分たちの世代の少しでも多くの人に、より早くこのことに気づいてもらえるように、自分が行動し、結果を残し、伝えることをして社会への還元をしてきます。

エネルギー問題についての話も惹きつけられました。私自身将来、一次産業を基軸とした地方活性化を考えており、農業におけるソーラーシェアについても、簡単な



修了・入塾式の会場となった鳩山会館

知識はもっていました。農家はソーラーシェアを行うことで収入が増え、安定的な農業経営ができるとともに、エネルギー問題への取り組みにも貢献できます。エネルギー問題に対する私の意見としては、核エネルギーのような、何かあった時に、人の手に負えない、社会環境に悪影響を及ぼすようなものは必要ないと思います。それは人間の欲であり、本来、自然環境のなかで賄わなければいけないエネルギーを、より多く効率的に生み出そうとして、またそこに様々な利権が絡むことによって人間の欲を満たすためのものになってしまっているのだと考えます。自然エネルギーで十分電力は賄えるということでしたし、そうでなければ人間が使う電力を減らせばいいだけだと思います。社会環境に無理をするから、様々な問題が生じるのだと思います。エネルギーについてももっと深く勉強しなければいけませんし、ソーラーシェアリングについても大変興味のある話ですので、引き続き勉強していきます。

自らの課題として、①エネルギー供給問題について調べる。(5/7まで) ②ソーラーシェア実施・普及までのステップ、ハードルを調べる(5/7まで) ③持論を持ちながら、自分の農業経営をするビジョンに落とし込む。(5/20まで) ④10の理念について、それぞれ自分の課題と意見をまとめる。(5/7まで)(木原大輔)

○…「あつまる」の若手社員、ヨークベニマルの女性幹部ら多くの新入塾生が出席した修了・入塾式は、例年がない盛り上がりで、印象に残る集まりでした。交流パーティーもとても短く感じましたが、それは充実したパーティーだったからでしょう。吉原さんの講義は、これまでの点としての知識を線にして、線は面になるような全体を俯瞰した充実した内容でした。特にロスチャイルド家の暗躍、ウラン・シンジケートと原発などの話は、ジグソーパズルが埋まっていく感じでした。

また鳩山さんのスピーチも、激動する世界情勢に対応した内容だけにもっと聞きたいと思いました。安倍政権のアンチテーゼとして提起した「脱大日本主義」は、その通りだと思います。汚辱まみれた政界に鳩山さんがカムバックするのは無理でしょうが、暴走する政治に対して警鐘を鳴らし続けてください。(皆川猛)